

処分場の周辺地下水から検出される重金属の由来を調べます

～最終処分場周辺地下水における自然由来等重金属検出要因の検討～



長野県環境保全研究所 循環型社会部

廃棄物最終処分場（以下「処分場」という。）の浸出水、放流水及び周辺地下水等の水質検査を行い、周辺環境への影響を調べています。このうち、地下水から検出されるヒ素や鉛などの重金属の由来について科学的に調査して、廃棄物行政の監視・指導のための基礎資料とします。

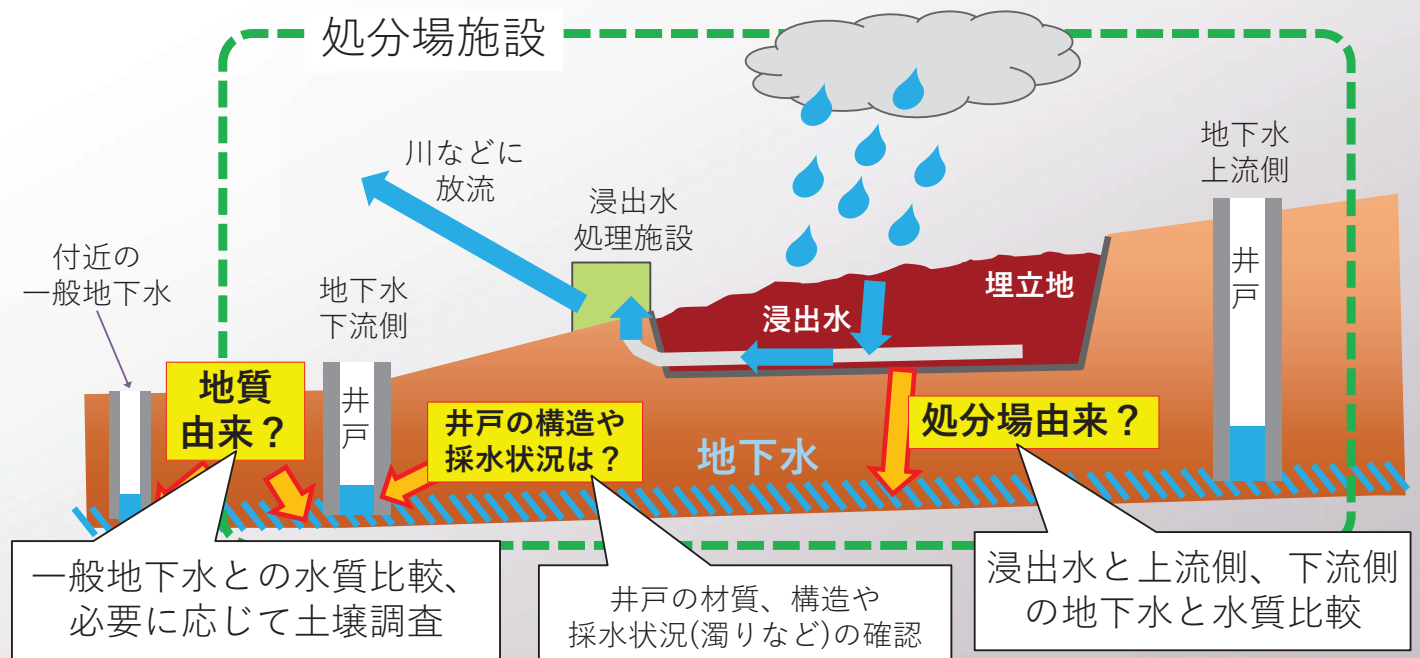
なぜ研究しているの？

<背景> 焼却灰などの廃棄物を埋め立てる施設を処分場といい、長野県には約60カ所で稼働しています。処分場の周りに2本以上の観測井戸を設置し、この水質を検査して周辺に汚染が広がっていないことを確認することが処分場設置者に求められています。当所では処分場における維持管理基準の遵守状況を確認するため、毎年、処分場からしみ出す浸出水や放流水の他、観測井戸から周辺地下水を採取し調査しています。



<目的> 周辺地下水から重金属などが検出される場合、処分場由来なのか自然由来なのか、こういった条件で出てきたのかなど、検出に関わる様々な要因やその傾向について調べます。

どうやって調べるの？



データや文献などの情報から総合的に要因を考察

関連するこれまでの研究

<最終処分場浸出水等の適正管理に向けた水質特性の把握に関する調査研究(令和2～3年度)>

処分場の周辺環境等への影響や安全性を検証するため、実態調査で得られた経年の水質データを統計解析し、水質特性について調べました。平成17年度から令和元年度までの処分場関連水のべ1500検体の水質測定結果と各施設の埋立物、埋め立て開始年等のデータベースから統計解析を行い、浸出水等水質と処分場の種類、埋立物との関連等について検討しました。